

学校教育課だより

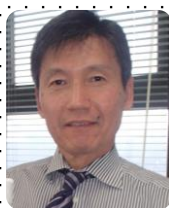
かけはし



学校教育課だより
「かけはし」
【第10号】
令和2年
2月20日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

目的と目標と手段

教育部長 田代 学



「目的」と「目標」の違いはおわかりでしょうか。目的は最終的に実現させ、成し遂げ、到達しようと目指すもので、目標は目的を達成するための目印。そして「手段」は目的目標を達成するための方法です。

平成十三年からの五年間、御殿場市救急医療センターに勤務しました。この施設は平日夜間、土曜日の午後、日曜祝日など、市中の医療機関が診療をしていない時に開いて

います。

私のような事務職は平日の昼間に業務するので、静寂の中ゆったりと時間は流れ、あくせくと働くことなどありません。配属されてたった三か月、看護師さん方の厚いおもてなしとストレスフリーの環境のせい、十キロ体重増加と脂肪肝になりました。

そのころは、忙しくもない忙しさを理由に横着三昧。そこから心機一転、大好きな夕

バコも止めて運動することを決心しました。目的は十二キロ以上のダイエットで健康を取り戻すこと。当面の目標は「ツール・ド・おきなわ」で完走することとしました。今年

の二〇二〇東京オリンピック・パラリンピックでは、当市も自転車ロードレースのコースの一部となりますが、「ツール・ド・おきなわ」は毎年十一月に沖縄県北部地域の公道を会場に行われている自転車ロードレースの甲子園と比喻される素人自転車乗りにとつての憧れの大会です。

達成するための手段として平日は朝食前に御殿場線の大岡駅まで往復五十キロメートル、休みの日はコースを決めずに百キロメートル以上の自転車トレーニングすることでした。始めてわずか半年ほどで、目的の一端である十二キ

ロ、ダイエットには成功したものの、今振り返ると目的と目標はぐちゃぐちゃで手段はでたらめでした。

仕事を進める上で目的、目標、手段は常々意識しなければいけないと考えます。この仕事の最終目的は何？ とりあえず今の目標はこれで良いのか？ もっと効果が上がって効率の良い手段はないのか？

私の自転車は、これらを誤り設定、入れ込み過ぎて冷静な判断ができずに修正しなかつたことから、痩せ過ぎの免疫力低下で体調を崩し、おまけに交通事故まで起こし、全治四か月の重傷。目標である完走に至るまでには三年を要し、一番大事な健康は現在も未達成。個人のことだから、大きな問題とはなりません。仕事だと、そうは問屋が卸しません。

先生方は保護者対応などで日常的に難しい決断をすることが多々あると思いますが、目的と目標と手段を冷静に再確認することで、大きな判断誤りは防げるのでは思っています。

目的？目標？手段？



市指定研究「学力向上」
中間発表会（朝日小学校）
平松 祐

御殿場市の子供たちの「学力」の状況について、本年度の全国学力・学習状況調査から振り返ってみると、教科に関する調査では、小学校の数値が全国平均を下回りました。質問紙調査からも「計画的な家庭学習」や「平日の勉強時間」等について、全国平均を下回るという結果となり、ここ数年同じ傾向が続いています。学校における授業改善と家庭学習の改善が必要不可欠であり、大きな課題と言えます。

そこで、朝日小では、「学力向上」の指定を受けるにあたり、子供たちの実態をとらえ直し、研修主題「考えを深める子の育成」友達との関わりを通して」を設定して、研究を進めています。考えを深める



う様子
がうか
がえ、
自分の
考えが
よく整
理され
ていま
した。
そして
て授業

ためには、友達との関わり(コミュニケーションや対話)が重要であるという共通理解のもと、朝日小の子供たちが身に付けるべき資質・能力の具体的な姿を検討し、「根拠を基に伝える力」「受け止めて聴く力」を育成していく授業づくりを模索しています。

今年度は、「授業改善(対話的な授業展開)」と「授業外・家庭学習の改善」の二点に重点的に取り組み、二年生と五年生の授業を公開しました。

公開された二つの授業では、家庭学習(自主勉強)や、朝の活動など授業以外の時間を有効活用して、自分の考えをつくりとまとめる時間を確保しました。廊下に並べられた自主勉強ノートからは、自分の持った課題に真摯に向き合

時間の中で、多様な意見に十分に触れる対話の時間を設けていました。ホワイトボードを介して、自分とは異なった考えにふれて、自分の考えを再構築する時間を保証していました。

授業では、友達と関わりながら、考えを深めようとする姿を垣間見ることができました。このような姿は、授業外での学びを単元構想の中に計画的に位置付けたこと、様々な学習形態を用いて対話的な授業を構想してきたことの成果と言えるでしょう。

今後の課題としては、学習形態ありきではなく、子供たちの状況に合わせた環境設定を行ったり、子供自身が適切な対話の手法を選択できたりしていけると、より主体的な姿が期待できるでしょう。

家庭学習の取組については、継続的・日常的に進めていきながら、子供だけでなく家庭にも浸透させていく必要があり、一単元実施するだけで定着するものではありません。課題の出し方や見届けの仕方、学習機会の保証といった点に踏み込んでいくことも、今後の研究の課題になりそうです。

そして、単元計画の中に家庭学習の位置づけをより明確にしていくことで、授業との関連付けがより深まり、考えを深める子供の育成につながることを思います。

【本発表日程】
令和二年十一月六日(金)

市指定研究
「教育課程」中間発表会
(御殿場市立原里幼稚園・御殿場市立原里西幼稚園・御殿場市立原里小学校)「アップローチカリキュラム・スタートカリキュラムを核とした幼小のなめらかな接続」

丹澤 謹志

みなさん御承知のとおり、今回の幼児教育と義務教育の指導要領等の改定では、幼小の円滑な接続が重要視されています。御殿場市におきましても、「御殿場市アップローチ・スタートカリキュラム及び小中学校のなめらかな接続構想」作成し、その推進を進めているところです。今回の中間発表会では、幼児教育における

アップローチカリキュラムの公表及び公開保育と義務教育におけるスタートカリキュラムの公表を行いました。

アップローチカリキュラムは、全公立幼稚園の教頭・主任の先生方が中心となって作成しました。そのため、幼児教育としての最終段階の姿が全園で共有され、就学に向けて経験したい遊びが園児の姿として意図的に配置されています。スタートカリキュラムは、

子供の実態をとらえ直し、入学からの四週間を一つの区切りとして作成しています。その目標は「学校に慣れること」が先にくるのではなく、まず、クラスの先生や友達に慣れ、次に、学校を知り、そして、学年の先生や友達に慣れ、最後に学校生活に慣れるというような構成になっています。

また、公開保育では、園児たちが生き生きと活動しており、「互いの思いを共有しながら作品を作る姿」が随所にみられました。原里幼稚園・原里西幼稚園では、「二園交流の「さつこタイム」をアップローチカリキュラムの中に盛り込み、独自のアップローチカリキュラムとして作成しています。こ

のように、公立幼稚園で作成したアップローチカリキュラムを自園の実態に合わせて修正することが極めて重要です。

さらに、講演会では、静岡大学の田宮縁教授より本研究内容について御指導いただきました。公開保育の園児の姿とアップローチカリキュラムとスタートカリキュラムを紐づけ、本研究を価値付けていただきました。今後の参考となる貴重なお話をしました。

さて、本研究はこれからも検証を繰り返して、改善していくものですが、その核となるのは「教職員の積極的な交流」です。他の園・校におきましても、幼小の円滑な接続を進めていくとは思いますが、今回のカリキュラムを活用していただけたら、たいへんうれしく思います。どうぞ御活用ください。



【本発表日程】
令和二年六月十九日(金)